

北海道浮魚ニュース

平成18(2006)年度5号 (通巻 No.218)

2006年 6月26日

北海道立水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2006年6月19日～6月23日
- ・調査海域：道南太平洋（渡島半島沖～日高沖～下北半島沖）
- ・調査船：金星丸（151t。イカ釣機5台、イカ用集魚灯20灯装備）

漁獲調査は4地点（St.1、8、15、16）で実施し、昨年（2005年6月20～24日）のデータと比較しました。ただし、昨年、スルメイカの漁獲適水温（表面で10以上）を下回ったため漁獲調査点をSt.13に変更した浦河沖のSt.15については、今年は本来の調査点でそのまま漁獲調査を行いました。

1. 水温分布（図1、2）

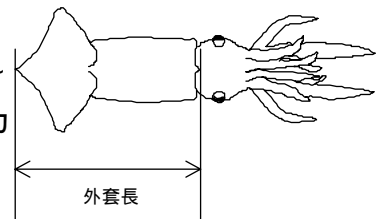
St.13を含む5調査点の表面水温は9.8～14.8の範囲（昨年8.5～14.8）にあり、昨年に比べSt.8とSt.15で高く、その他の調査点で低い値を示しました。水深50m層の水温は4.9～9.7の範囲（昨年7.5～11.5）にあり、すべての調査点で昨年の値を1.0～5.3下回りました。

2. 分布密度（図1、2、表1）

各漁獲調査点でのCPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は0～6.1（昨年0～3.9）、平均CPUEは1.6（昨年1.0）で、1999年以降では3番目に低い値でした。函館沖のSt.16では6.1（昨年3.9）と昨年をやや上回りましたが、渡島・下北半島以東の太平洋では昨年と同じくほとんど分布が見られませんでした。

3. スルメイカの大きさ（図1、2、表1）

スルメイカの外套長（胴長）は12～17cm（昨年12～17cm）の範囲にあり、モード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は15cm（昨年14cm）でした。



4. まとめ

以上の結果から、道南太平洋周辺海域における6月下旬現在のスルメイカの分布状況は「分布密度は函館沖で昨年をやや上回ったが、下北半島東沖から浦河沖にかけての海域では昨年と同じく低い。」と考えられます。

（文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991）

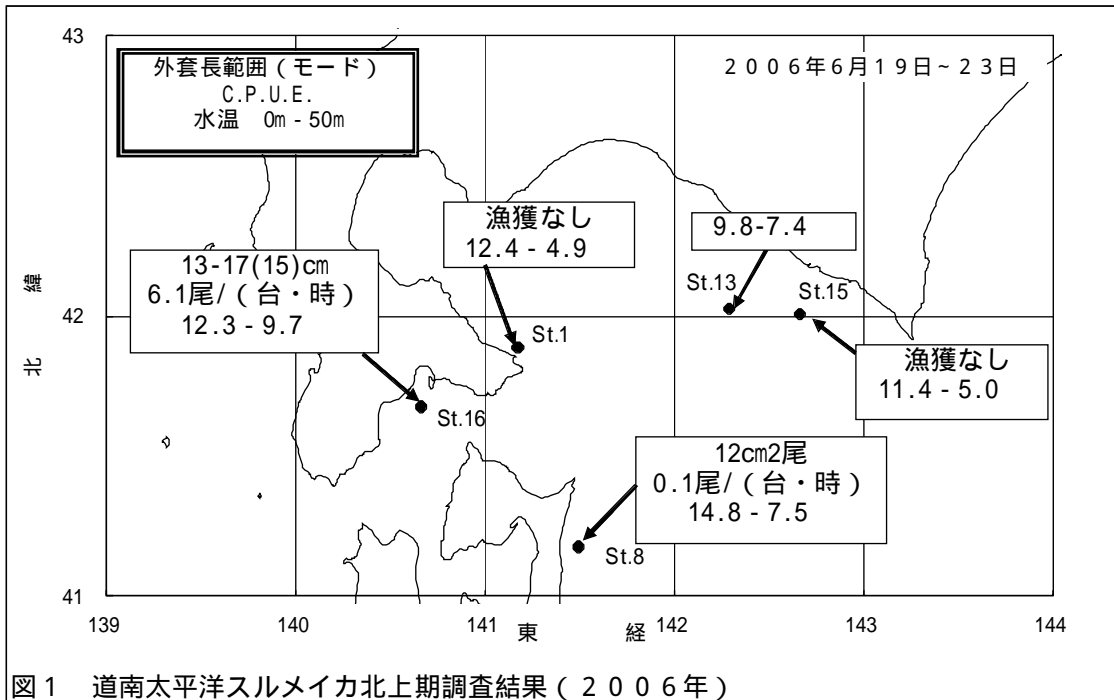


図1 道南太平洋スルメイカ北上期調査結果(2006年)

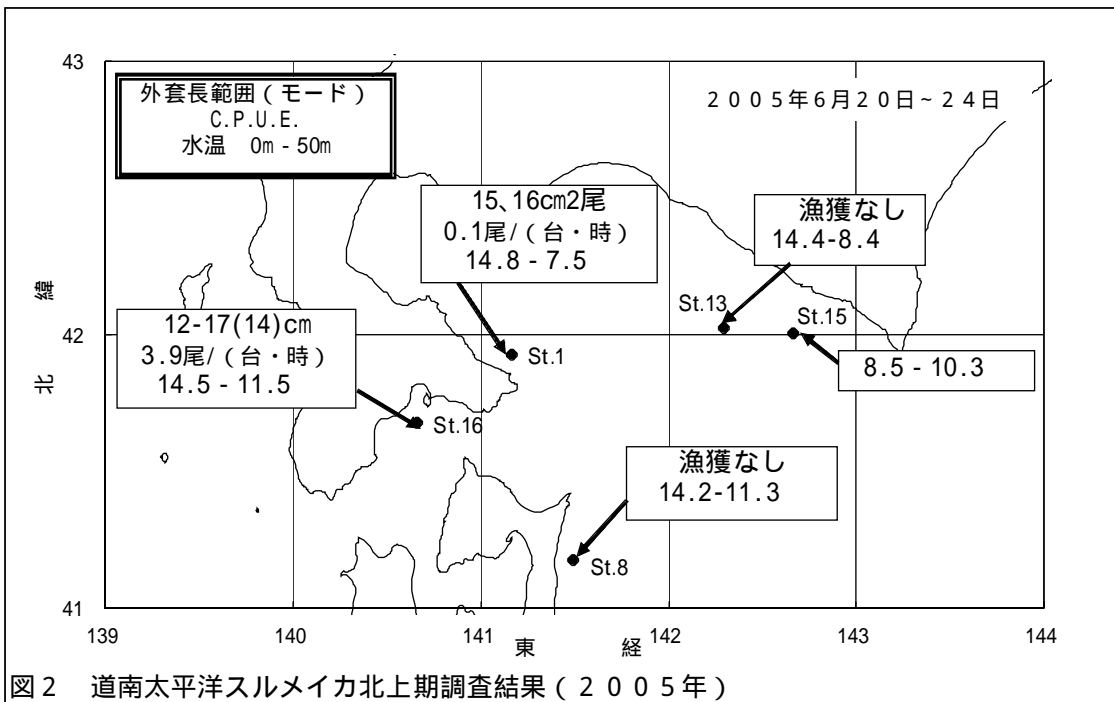


図2 道南太平洋スルメイカ北上期調査結果(2005年)

表1 道南太平洋スルメイカ北上期調査時のC P U E と外套長の経年変化

	1999(H11) 6/28-7/8	2000(H12) 7/3-7	2001(H13) 7/2-5,9-13	2002(H14) 6/24-28	2003(H15) 6/23-27	2004(H16) 6/21-25	2005(H17) 6/20-24	2006(H18) 6/19-6/23
4調査点の 平均C P U E (尾/台・時間)	1.1	17.9	116.6	4.4	4.6	10.6	1.0	1.6
外套長の範囲 (cm)	14-25	12-20	9-24	13-21	10-20	13-21	12-17	12-17
外套長モードの範囲 (cm)	14-18	15-16	15, 19	15-17	14-17	18	14	15